

注3

大学番号：私立242

[平成30年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

関西医療大学 保健医療学部 作業療法学科

注2

## 【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人関西医療学園  
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 キョウカクブチョウ 教学部長 ・ ヨシオカ 吉岡 マサキ 正樹

電話番号 072-453-8251

（夜間） 072-453-8251

F A X 072-453-0276

e-mail honbu@kansai.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( ) 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

保健医療学部

＜作業療法学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	25

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 関西医療学園

## (2) 大学名

関西医療大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒590-0482

大阪府泉南郡熊取町若葉2丁目11番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タケダ ダイスケ) 武田大輔 (平成26年4月1日)		
学長	(ヨシダ ソウヘイ) 吉田宗平 (平成26年4月1日)		
学部長	(ワカヤマ イクロウ) 若山育郎 (平成25年4月1日)		
学科長等	(イワイ カズコ) 岩井和子 (平成30年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)  
令和2年度に報告する内容 → (2)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)  
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
保健医療学部 作業療法学科  学士 (作業療法学)	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	年 4	人 40	年次 人 -	人 160	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	40 ( - ) [ - ]	-	40 ( - ) [ - ]	-	40 ( - ) [ - ]	-	-	( - ) [ - ]	1.04 倍	— 倍	
志願者数	100 ( - ) [ - ]	-	136 ( - ) [ - ]	-	136 ( - ) [ - ]	-	-	( - ) [ - ]			
受験者数	98 ( - ) [ - ]	-	132 ( - ) [ - ]	-	133 ( - ) [ - ]	-	-	( - ) [ - ]			
合格者数	83 ( - ) [ - ]	-	90 ( - ) [ - ]	-	78 ( - ) [ - ]	-	-	( - ) [ - ]			
B 入学者数	39 ( - ) [ - ]	-	46 ( - ) [ - ]	-	40 ( - ) [ - ]	-	-	( - ) [ - ]			
入学定員超過率 B/A	0.97		1.15		1.00		-				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)  
 ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。  
 ・ 転入学生は記入しないでください。  
 ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	39 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	46 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	41 [ - ] ( 1 )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	
2年次	/		39 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	45 [ - ] ( 2 )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	
3年次			/		/		36 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )
4年次	/						/		- [ - ] ( - )
計			39 [ - ] ( - )		85 [ - ] ( - )				122 [ - ] ( 3 )

・ 令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	39人	0人	平成30年度	0人	0人	
令和元年度	85人	3人	平成30年度	1人	0人	他の教育機関への入学・転学(1人)
			令和元年度	2人	0人	他の教育機関への入学・転学(2人)
令和2年度	122人	0人	平成30年度	－人	－人	
			令和元年度	－人	－人	
			令和2年度	－人	－人	
令和3年度	－人	－人	平成30年度	－人	－人	
			令和元年度	－人	－人	
			令和2年度	－人	－人	
			令和3年度	－人	－人	
合計		3人		3人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{39} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{85} = \boxed{3.52} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{122} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	小児期の疾患とその障害	2前	1								1	
	作業療法管理学	3後	1			1						
	動作解析学	2後	1			1			2			
	作業療法安全管理学	1後	1			1						
	作業療法総合ゼミ	4後	1			3	2					
	作業療法評価学総論	2前	1			1						
	身体障害作業療法評価学	2後	1			1						
	精神障害作業療法評価学	2後	1			1						
	発達障害作業療法評価学	2後	1			1						
	老年期障害作業療法評価学	2後	1			1						
	日常生活活動作業療法評価学	2後	1					1				
	高次脳機能障害作業療法評価学	2後	1			1						
	身体障害作業療法治療学	3前	1			1						
	身体障害作業療法治療学演習	3後	1			1			2			
	精神障害作業療法治療学	3前	1			1						
	精神障害作業療法治療学演習	3後	1			1	1					
	発達障害作業療法治療学	3前	1			1						
	発達障害作業療法治療学演習	3後	1			1			1			
	老年期障害作業療法治療学	3前	1			1						
	老年期障害作業療法治療学演習	3後	1			1	1					
	日常生活活動作業療法治療学	3前	1					1				
	日常生活活動作業療法治療学演習	3後	1					1	2			
	高次脳機能障害作業療法治療学	3前	1			1						
	高次脳機能障害作業療法治療学演習	3後	1			1			1			
	内部障害作業療法治療学	3前	1			1						
	義肢・装具学	3後	1			1						
	リハビリテーション支援機器概論	3前	1						1			
	就学・就労支援概論	3前	2			1						
	セラピューティック・レクリエーション概論	3後	1						1			
	認知行動療法	3後	1			1						
	カウンセリング技法	2後	1			1						
	地域作業療法学総論	3前	2			1						
	地域作業療法学各論	3後	2					1				
臨床実習Ⅰ	1後	1			1			2				
臨床実習Ⅱ	3後	5			2	1	2					
臨床実習Ⅲ	4前	7			2	2	1	2				
臨床実習Ⅳ	4前	7			2	2	1	2				
臨床実習評価セミナー	3後	1			1	1	1	1				
臨床実習総合セミナー	4前	1			1	1	1	2				
表現思考型学習	1後	1	1		1			2				
国際リハビリテーション学総論	2後	1			1							
国際リハビリテーション学各論	2後	2			1							
スポーツリハビリテーション概論	3前	1									1	
専門職連携概論	3後	1			1							
芸術療法概論	3後	1			1							
代替療法概論	3後	1			1							
東洋医学概論	4後	1									1	
キャリアサポートとワークライフバランス論	4後	1			1			1				
作業科学概論	4後	1			1			1				
英文献講読	3前	1						1			1	
研究法入門	3前	1			1							
研究法応用	4後	2			3	2	1					
小計(87科目)	-	98	16		4	2	1	2			24	
合計(111科目)	-	105	44		4	2	1	2			46	
卒業要件及び履修方法												
必修科目105単位、総合教育科目の選択科目から7単位、専門教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：49単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	小児期の疾患とその障害	2前	1									1
	作業療法管理学	3後	1			1						
	動作解析学	2後	1			1			1	2		
	作業療法安全管理学	1後	1			1						2
	作業療法総合ゼミ	4後	1			3	2					
	作業療法評価学総論	2前	1			1						
	身体障害作業療法評価学	2後	1			1						
	精神障害作業療法評価学	2後	1			1			1			
	発達障害作業療法評価学	2後	1			1						
	老年期障害作業療法評価学	2後	1			1			1			
	日常生活活動作業療法評価学	2後	1						1			
	高次脳機能障害作業療法評価学	2後	1			1						
	身体障害作業療法治療学	3前	1			1			1			
	身体障害作業療法治療学演習	3後	1			1			1		2	
	精神障害作業療法治療学	3前	1			1						
	精神障害作業療法治療学演習	3後	1			1	1					
	発達障害作業療法治療学	3前	1			1						
	発達障害作業療法治療学演習	3後	1			1					1	
	老年期障害作業療法治療学	3前	1			1			1			
	老年期障害作業療法治療学演習	3後	1			1	1		1			
	日常生活活動作業療法治療学	3前	1						1			
	日常生活活動作業療法治療学演習	3後	1						1	2		
	高次脳機能障害作業療法治療学	3前	1			1						
	高次脳機能障害作業療法治療学演習	3後	1			1					1	
	内部障害作業療法治療学	3前	1			1						
	義肢・装具学	3後	1			1			1			
	リハビリテーション支援機器概論	3前	1								1	
	就学・就労支援概論	3前	2			1			1			
	セラピューティック・レクリエーション概論	3後	1								1	
	認知行動療法	3後	1			1			1			
	カウンセリング技法	2後	1			1						
	地域作業療法学総論	3前	2			1						
	地域作業療法学各論	3後	2						1			
臨床実習Ⅰ	1後	1			1			1		2		
臨床実習Ⅱ	3後	5			2	1	2			2		
臨床実習Ⅲ	4前	7			2	2	1	2		2		
臨床実習Ⅳ	4前	7			2	2	1	2		2		
臨床実習評価セミナー	3後	1			1	1	1	1		1		
臨床実習総合セミナー	4前	1			1	1	1	2		2		
表現思考型学習	1後	1	1		1			2				
国際リハビリテーション学総論	2後	1			1							
国際リハビリテーション学各論	2後	2			1			1				
スポーツリハビリテーション概論	3前	1									1	
専門職連携概論	3後	1			1							
芸術療法概論	3後	1			1							
代替療法概論	3後	1			1							
東洋医学概論	4後	1									1	
キャリアサポートとワークライフバランス論	4後	1			1			1				
作業科学概論	4後	1			1			1				
英文献講読	3前	1						1				
研究法入門	3前	1			1							
研究法応用	4後	2			3	2	1					
小計(87科目)	-	98	16		4	2	1	2			24	
合計(111科目)	-	105	44		4	2	1	2			43	
卒業要件及び履修方法												
必修科目105単位、総合教育科目の選択科目から7単位、専門教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：49単位(年間))												



【令和元年度】

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	東洋医療の基礎・導入教育	1前	1			1				2		
	科学の基礎	1前		1		1					2	
	生命のしくみ	1前		2							1	
	生命の化学	1前		2							1	
	統計学の基礎	1後		1							1	
	物質と自然のしくみ	1後		2							1	
	情報科学	1後		2							1	
	生命倫理	1後	2									2
	法の基礎知識(日本国憲法)	1前		2								1
	心理学	1前		2								1
	スポーツと健康	1前		2								1
	生涯スポーツⅠ	1前	1									1
	生涯スポーツⅡ	1後		1								1
	社会学	1後		2								1
	社会福祉論	1後		2								1
	教育学	1前		2								1
	英語表現法Ⅰ	1前	1									1
	英語表現法Ⅱ	1後	1									1
	英語表現法Ⅲ	2前	1									1
	英語表現法Ⅳ	2後		1								1
	医療英語	2後		1								1
	国語表現法	1前		1								1
	コミュニケーション学	1前		1								1
	手話	1後		1								2
小計(24科目)	-	7	28		1				2		19	
専門教育科目	人体の構造Ⅰ	1前	2			1						
	人体の構造Ⅱ	1後	1			1						
	人体の構造演習	1後	1			1			1			
	人体の機能Ⅰ	1前	2								1	
	人体の機能Ⅱ	1後	1								1	
	人体の機能演習	1後	1						1			2
	基礎運動学Ⅰ	1後	1			1	1					
	基礎運動学Ⅱ	2前	1			1	1	1				
	基礎運動学演習	2前	1			1	1	1	2			
	人間発達学	1前	2			1						
	医学概論	1前	2									1
	衛生・公衆衛生学Ⅰ	2前	1									1
	衛生・公衆衛生学Ⅱ	2後		1								1
	病因・病態学Ⅰ	2前	1									1
	病因・病態学Ⅱ	2後	1									1
	臨床疾患学(内科)	2前	1								1	
	臨床疾患学(外科)	2後	1								3	
	整形外科学	2前	1									1
	神経内科学	2前	1									1
	臨床心理学概論	1後	1									1
	精神医学	2前	1									1
	画像解析学概論	3前	1									1
	加齢医学	2後	1									1
	皮膚科・感覚機能医学	2後		1								2
	免疫学	3前		1								1
	食品栄養学	3前		1								1
	臨床生理学	3前		1								1
	医療統計	3前		1								1
	リハビリテーション概論	1前	1			1						
	保健医療福祉概論	1後	1			1						
作業療法学概論	1前	2			1						1	
作業療法理論	2前	2			1							
基礎作業学	1後	1						2				
日常生活活動学概論	2前	1							1			
精神疾患とその障害	2後	1			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	東洋医療の基礎・導入教育	1前	1			1				2		
	科学の基礎	1前		1		1						2
	生命のしくみ	1前		2								1
	生命の化学	1前		2								1
	統計学の基礎	1後		1								1
	物質と自然のしくみ	1後		2								1
	情報科学	1後		2								1
	生命倫理	1後	2									3
	法の基礎知識(日本国憲法)	1前		2								1
	心理学	1前		2								1
	スポーツと健康	1前		2								1
	生涯スポーツⅠ	1前	1									1
	生涯スポーツⅡ	1後		1								1
	社会学	1後		2								1
	社会福祉論	1後		2								1
	教育学	1前		2								1
	英語表現法Ⅰ	1前	1									1
	英語表現法Ⅱ	1後	1									1
	英語表現法Ⅲ	2前	1									2
	英語表現法Ⅳ	2後		1								2
	医療英語	2後		1								1
	国語表現法	1前		1								1
	コミュニケーション学	1前		1								1
	手話	1後		1								2
小計(24科目)	-	7	28		1				2		22	
専門教育科目	人体の構造Ⅰ	1前	2			1						
	人体の構造Ⅱ	1後	1			1						
	人体の構造演習	1後	1			1				1		
	人体の機能Ⅰ	1前	2									1
	人体の機能Ⅱ	1後	1									1
	人体の機能演習	1後	1							1		2
	基礎運動学Ⅰ	1後	1			1			1			
	基礎運動学Ⅱ	2前	1			1						
	基礎運動学演習	2前	1			1				1	2	
	人間発達学	1前	2			1						
	医学概論	1前	2									1
	衛生・公衆衛生学Ⅰ	2前	1									1
	衛生・公衆衛生学Ⅱ	2後		1								1
	病因・病態学Ⅰ	2前	1									1
	病因・病態学Ⅱ	2後	1									1
	臨床疾患学(内科)	2前	1									2
	臨床疾患学(外科)	2後	1									3
	整形外科学	2前	1									1
	神経内科学	2前	1									1
	臨床心理学概論	1後	1									1
	精神医学	2前	1									1
	画像解析学概論	3前	1									1
	加齢医学	2後	1									1
	皮膚科・感覚機能医学	2後		1								2
	免疫学	3前		1								1
	食品栄養学	3前		1								1
	臨床生理学	3前		1								1
	医療統計	3前		1								1
	リハビリテーション概論	1前	1						1			
	保健医療福祉概論	1後	1						1			
作業療法学概論	1前	2									1	
作業療法理論	2前	2						1				
基礎作業学	1後	1								2		
日常生活活動学概論	2前	1							1			
精神疾患とその障害	2後	1			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	小児期の疾患とその障害	2前	1								1
	作業療法管理学	3後	1			1					
	動作解析学	2後	1			1		1	2		
	作業療法安全管理学	1後	1			1			2		
	作業療法総合ゼミ	4後	1			3	2				
	作業療法評価学総論	2前	1			1					
	身体障害作業療法評価学	2後	1			1					
	精神障害作業療法評価学	2後	1				1				
	発達障害作業療法評価学	2後	1			1					
	老年期障害作業療法評価学	2後	1				1				
	日常生活動作作業療法評価学	2後	1					1			
	高次脳機能障害作業療法評価学	2後	1			1					
	身体障害作業療法治療学	3前	1				1				
	身体障害作業療法治療学演習	3後	1				1		2		
	精神障害作業療法治療学	3前	1			1					
	精神障害作業療法治療学演習	3後	1			1	1				
	発達障害作業療法治療学	3前	1			1					
	発達障害作業療法治療学演習	3後	1			1			1		
	老年期障害作業療法治療学	3前	1				1				
	老年期障害作業療法治療学演習	3後	1				1	1			
	日常生活動作作業療法治療学	3前	1					1			
	日常生活動作作業療法治療学演習	3後	1					1	2		
	高次脳機能障害作業療法治療学	3前	1			1					
	高次脳機能障害作業療法治療学演習	3後	1			1			1		
	内部障害作業療法治療学	3前	1			1					
	義肢・装具学	3後	1				1				
	リハビリテーション支援機器概論	3前	1						1		
	就学・就労支援概論	3前	2				1				
	セラピューティック・レクリエーション概論	3後	1						1		
	認知行動療法	3後	1				1				
	カウンセリング技法	2後	1				1				
	地域作業療法学総論	3前	2				1				
	地域作業療法学各論	3後	2					1			
	臨床実習Ⅰ	1後	1				1		2		
	臨床実習Ⅱ	3後	5				2	1	2		
	臨床実習Ⅲ	4前	7			2	2	1	2		
臨床実習Ⅳ	4前	7			2	2	1	2			
臨床実習評価セミナー	3後	1				1	1	1			
臨床実習総合セミナー	4前	1			1	1	1	2			
表現思考型学習	1後		1			1		2			
国際リハビリテーション学総論	2後		1		1						
国際リハビリテーション学各論	2後		2			1					
スポーツリハビリテーション概論	3前		1							1	
専門職連携概論	3後	1			1						
芸術療法概論	3後		1		1						
代替療法概論	3後		1		1						
東洋医学概論	4後		1							1	
キャリアサポートとワークライフバランス論	4後		1			1					
作業科学概論	4後		1		1						
英文献講読	3前		1							1	
研究法入門	3前		1		1						
研究法応用	4後		2		3	2	1				
小計(87科目)			98	16		4	2	1	2	24	
合計(111科目)			105	44		4	2	1	2	43	
卒業要件及び履修方法											
必修科目105単位、総合教育科目の選択科目から7単位、専門教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：49単位(年間))											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	小児期の疾患とその障害	2前	1								1
	作業療法管理学	3後	1			1					
	動作解析学	2後	1			1				2	
	作業療法安全管理学	1後	1			1					
	作業療法総合ゼミ	4後	1			3	2				
	作業療法評価学総論	2前	1			1					
	身体障害作業療法評価学	2後	1			1					
	精神障害作業療法評価学	2後	1				1				
	発達障害作業療法評価学	2後	1			1					
	老年期障害作業療法評価学	2後	1				1				
	日常生活動作作業療法評価学	2後	1					1			
	高次脳機能障害作業療法評価学	2後	1			1					
	身体障害作業療法治療学	3前	1				1				
	身体障害作業療法治療学演習	3後	1				1			2	
	精神障害作業療法治療学	3前	1			1					
	精神障害作業療法治療学演習	3後	1			1	1				
	発達障害作業療法治療学	3前	1			1					
	発達障害作業療法治療学演習	3後	1			1				1	
	老年期障害作業療法治療学	3前	1				1				
	老年期障害作業療法治療学演習	3後	1				1	1			
	日常生活動作作業療法治療学	3前	1					1			
	日常生活動作作業療法治療学演習	3後	1					1	2		
	高次脳機能障害作業療法治療学	3前	1			1					
	高次脳機能障害作業療法治療学演習	3後	1			1			1		
	内部障害作業療法治療学	3前	1			1					
	義肢・装具学	3後	1				1				
	リハビリテーション支援機器概論	3前	1						1		
	就学・就労支援概論	3前	2				1				
	セラピューティック・レクリエーション概論	3後	1						1		
	認知行動療法	3後	1				1				
	カウンセリング技法	2後	1				1				
	地域作業療法学総論	3前	2				1				
	地域作業療法学各論	3後	2					1			
	臨床実習Ⅰ	1後	1				1		2		
	臨床実習Ⅱ	3後	5				2	1	2		
	臨床実習Ⅲ	4前	7			2	2	1	2		
臨床実習Ⅳ	4前	7			2	2	1	2			
臨床実習評価セミナー	3後	1				1	1	1			
臨床実習総合セミナー	4前	1			1	1	1	2			
表現思考型学習	1後		1			1		2			
国際リハビリテーション学総論	2後		1		1						
国際リハビリテーション学各論	2後		2			1					
スポーツリハビリテーション概論	3前		1							1	
専門職連携概論	3後	1			1						
芸術療法概論	3後		1		1						
代替療法概論	3後		1		1						
東洋医学概論	4後		1							1	
キャリアサポートとワークライフバランス論	4後		1			1					
作業科学概論	4後		1		1						
英文献講読	3前		1							1	
研究法入門	3前		1		1						
研究法応用	4後		2		3	2	1				
小計(87科目)			98	16		4	2	1	2	26	
合計(111科目)			105	44		4	2	1	2	48	
卒業要件及び履修方法											
必修科目105単位、総合教育科目の選択科目から7単位、専門教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：49単位(年間))											

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
  - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。  
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

- ・授業の充実のため「生命倫理」の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・兼任教員の都合により、「生涯スポーツⅠ」、「生涯スポーツⅡ」の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・兼任教員の都合により、「英語表現法Ⅰ」、「英語表現法Ⅱ」の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・兼任教員の都合により、「英語表現法Ⅲ」、「英語表現法Ⅳ」の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・兼任教員の都合および授業の充実のため「手話」の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・授業の充実のため「人体の機能演習」の配置を「専任1、兼任・兼任1」から「専任1、兼任・兼任2」に変更。
- ・授業の充実のため「基礎運動学Ⅰ」の配置を「教授1」から「教授1」「准教授1」に変更。

**【令和元年度】**

- ・兼任教員の都合により、「生命倫理」の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・兼任教員の都合により、「英語表現法Ⅲ」、「英語表現法Ⅳ」の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・授業の充実のため「基礎運動学Ⅱ」の配置を「教授1」から「教授1」「准教授1」「講師1」に変更。
- ・授業の充実のため「基礎運動学演習」の配置を「講師1」「助教2」から「准教授1」「講師1」「助教2」に変更。
- ・兼任教員の都合により、「臨床疾患学（内科）」の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・授業の充実のため「動作解析学」の配置を「教授1」「助教2」から「教授1」「講師1」「助教2」に変更。
- ・授業の充実のため「作業療法安全管理学」の配置を「教授1」から「教授1」「助教2」に変更。

**【令和2年度】**

- ・兼任教員の都合により、「医療英語」の配置を「兼任1」から「教授1」に変更。
- ・兼任教員の都合により、「英文献購読」の配置を「兼任1」から「教授1」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
78	33	0	111	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目・・・該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目・・・該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{111} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	17,340.45㎡	-	㎡	17,340.45㎡				
	運動場用地	6,379.70㎡	-	㎡	6,379.70㎡				
	小 計	23,720.15㎡	-	㎡	23,720.15㎡				
	そ の 他	25,294.85㎡	-	㎡	25,294.85㎡				
合 計	49,015.00㎡	-	㎡	49,015.00㎡					
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	建築計画と登記上の 面積の誤差 (30)			
		23,629.44㎡ 23,631.58㎡ (23,629.44㎡) (23,631.58㎡)	-	㎡	23,629.44㎡ 23,631.58㎡ (23,629.44㎡) (23,631.58㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	30室	3室	27室	1室 (補助職員 人)	1室 (補助職員 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	保健医療学部 作業療法学科			8 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共有分 を含む。 新規取得・廃棄が発 生したため。(元) 新規取得・廃棄が発 生したため。(2) 雑誌購読内容を見直 したため。(2) 視聴覚資料の利用が 少ないことから予算を 削減したため。(2)	
	保健医療学部 作業療法学科	61,701 [11,727] 61,701 [12,689] (59,668 [11,573]) (61,628 [12,446]) (61,311 [12,689])	174 [57] 212 [65] 224 [72] 220 [69] (174 [57]) (212 [65]) (220 [69])	16 [16] 18 [18] 17 [17] (16 [16]) (18 [18]) (17 [17])	1,613 1,641 1,645 1,678 (1,613) (1,601) (1,602)	3,927 4,100 (4,033) (3,925) (3,927) (4,100)	367 347 (297) (367) (347)		
	計	61,701 [11,727] 61,701 [12,689] (59,668 [11,573]) (61,628 [12,446]) (61,311 [12,689])	174 [57] 212 [65] 224 [72] 220 [69] (174 [57]) (212 [65]) (220 [69])	16 [16] 18 [18] 17 [17] (16 [16]) (18 [18]) (17 [17])	1,613 1,641 1,645 1,678 (1,613) (1,601) (1,602)	3,927 4,100 (4,033) (3,925) (3,927) (4,100)	367 347 (297) (367) (347)		
	(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				大学全体 図書館の面積は、ラーニ ング commons 307-66 309, 20㎡を含む。(30) 図書館の閲覧座席数は ラーニング commons 69 132席を含む。(30) 図書館の閲覧座席数はパ ソコンコーナー10席、AV コーナー4席を含む。 (元) 図書館の閲覧座席数はブ ラウジングコーナー他の ソファ16席を含む。 (2)
		1,208.90㎡ 1,207.38㎡	298 282 268 196		63,333冊				
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要							
	1,426.03㎡	-							
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は、学部単位で算出 が難しいため大学全体を計上 電子ジャーナル、データベース の整備費は別に計上 設備購入費は物品の欠品や変更 による。(30) 見積と実績との差額発生のため。 (元)	
	教員 1 人 当 り 研 究 費 等	554千円	559千円	図書購入費	1,179千円 1,710千円	221千円 500千円	500千円		
	共 同 研 究 費 等	9,473千円 10,000千円	10,000千円	設備購入費	131,522千円 148,905千円	643千円 1,000千円	1,000千円		
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次 1,800千円 1,900千円	第 2 年 次 1,650千円 1,600千円	第 3 年 次 1,650千円 1,600千円	第 4 年 次 1,650千円 1,600千円	第 5 年 次 — 千円	第 6 年 次 — 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消のまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	関西医療大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
保健医療学部	4	250	-	950		1.05	1.02	平成30	平成15	大阪府泉南郡熊取町若葉2丁目11番1号	定員変更(10)
はり灸・スポーツトレーナー学科	4	50	-	200	学士(鍼灸学)	1.04	1.02	-	平成15		
理学療法学科	4	60	-	240	学士(理学療法学)	1.06	1.08	-	平成19	同上	
作業療法学科	4	40	-	120	学士(作業療法学)	1.04	1.00	-	平成30	同上	
ヘルスプロモーション整備学科	4	40	-	160	学士(保健医療学)	0.92	0.85	-	平成20	同上	
臨床検査学科	4	60	-	230	学士(保健衛生学)	1.13	1.10	平成30	平成25	同上	
保健看護学部	4	90	-	360		1.08	1.03	-	平成21		
保健看護学科	4	90	-	360	学士(看護学)	1.08	1.03	-	平成21	同上	
保健医療学研究科	2	9	-	18		1.21	0.88	-	平成19		
保健医療学専攻	2	9	-	18	修士(保健医療学)	1.21	0.88	-	平成19	同上	
大学全体	-	349	-	1,328		-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<保健医療学部 作業療法学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	学長 教授	吉田 宗平 (68) <平成30年9月> 医学博士	生命倫理
専任	教授	岩井 和子 (66) <平成30年4月> 博士(社会福祉学)	リハビリテーション概論 保健医療福祉概論 作業療法概論 精神疾患とその障害 作業療法総論 作業療法評価学総論 精神障害作業療法治療学 精神障害作業療法治療学演習 内部障害作業療法治療学 カウンセリング技法 専門職連携概論 芸術療法概論 代替療法概論 作業科学概論 研究法応用
専任	教授	伊藤 恵美 (56) <令和元年9月> 博士(心理学)	作業療法学概論 作業療法管理学 作業療法総論 身体障害作業療法評価学 高次脳機能障害作業療法評価学 高次脳機能障害作業療法治療学 高次脳機能障害作業療法治療学演習 地域作業療法学総論 国際リハビリテーション学総論 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 研究法入門 研究法応用
兼任	講師	伊藤 恵美 (56) <平成30年4月> 博士(心理学)	作業療法学概論
専任	教授	大歳 太郎 (43) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎運動学Ⅰ 基礎運動学Ⅱ 人間発達学 動作解析学 作業療法安全管理学 作業療法総論 発達障害作業療法評価学 発達障害作業療法治療学 発達障害作業療法治療学演習 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 臨床実習総合セミナー 研究法応用
専任	教授	東家 一雄 (55) <平成30年4月> 博士(医学)	東洋医療の基礎・導入教育 人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 人体の構造演習
専任	准教授	木村 大介 (47) <平成30年4月> 博士(保健学)	作業療法総論 身体障害作業療法治療学 身体障害作業療法治療学演習 義肢・装具学 老年期障害作業療法評価学 老年期障害作業療法治療学演習 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 臨床実習評価セミナー 臨床実習総合セミナー 研究法応用

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	学長 教授	吉田 宗平 (69) <平成30年9月> 医学博士	生命倫理
専任	教授	岩井 和子 (67) <平成30年4月> 博士(社会福祉学)	リハビリテーション概論 保健医療福祉概論 作業療法概論 精神疾患とその障害 作業療法総論 作業療法評価学総論 精神障害作業療法治療学 精神障害作業療法治療学演習 内部障害作業療法治療学 カウンセリング技法 専門職連携概論 芸術療法概論 代替療法概論 作業科学概論 研究法応用
専任	教授	伊藤 恵美 (57) <令和元年9月> 博士(心理学)	作業療法学概論 作業療法管理学 作業療法総論 身体障害作業療法評価学 高次脳機能障害作業療法評価学 高次脳機能障害作業療法治療学 高次脳機能障害作業療法治療学演習 地域作業療法学総論 国際リハビリテーション学総論 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 研究法入門 研究法応用
兼任	講師	伊藤 恵美 (57) <平成30年4月> 博士(心理学)	作業療法学概論
専任	教授	大歳 太郎 (44) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎運動学Ⅰ 基礎運動学Ⅱ 人間発達学 動作解析学 作業療法安全管理学 作業療法総論 発達障害作業療法評価学 発達障害作業療法治療学 発達障害作業療法治療学演習 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 臨床実習総合セミナー 研究法応用
専任	教授	東家 一雄 (56) <平成30年4月> 博士(医学)	東洋医療の基礎・導入教育 人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 人体の構造演習
専任	准教授	木村 大介 (48) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎運動学Ⅰ 作業療法総論 身体障害作業療法治療学 身体障害作業療法治療学演習 義肢・装具学 老年期障害作業療法評価学 老年期障害作業療法治療学演習 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 臨床実習評価セミナー 臨床実習総合セミナー 研究法応用

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	学長 教授	吉田 宗平 (69) <平成30年9月> 医学博士	生命倫理
専任	教授	岩井 和子 (68) <平成30年4月> 博士(社会福祉学)	リハビリテーション概論 保健医療福祉概論 作業療法概論 精神疾患とその障害 作業療法総論 作業療法評価学総論 精神障害作業療法治療学 精神障害作業療法治療学演習 内部障害作業療法治療学 カウンセリング技法 専門職連携概論 芸術療法概論 代替療法概論 作業科学概論 研究法応用
専任	教授	伊藤 恵美 (58) <令和元年5月> 博士(心理学)	作業療法学概論 作業療法管理学 作業療法総論 身体障害作業療法評価学 高次脳機能障害作業療法評価学 高次脳機能障害作業療法治療学 高次脳機能障害作業療法治療学演習 地域作業療法学総論 国際リハビリテーション学総論 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 研究法入門 研究法応用
専任	教授	大歳 太郎 (45) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎運動学Ⅰ 基礎運動学Ⅱ 人間発達学 動作解析学 作業療法安全管理学 作業療法総論 発達障害作業療法評価学 発達障害作業療法治療学 発達障害作業療法治療学演習 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 臨床実習総合セミナー 研究法応用
専任	教授	東家 一雄 (57) <平成30年4月> 博士(医学)	東洋医療の基礎・導入教育 人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 人体の構造演習
専任	准教授	木村 大介 (49) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎運動学Ⅰ 基礎運動学Ⅱ 基礎運動学演習 作業療法総論 身体障害作業療法治療学 身体障害作業療法治療学演習 義肢・装具学 老年期障害作業療法評価学 老年期障害作業療法治療学 老年期障害作業療法治療学演習 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 臨床実習評価セミナー 臨床実習総合セミナー 研究法応用

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	学長 教授	吉田 宗平 (69) <平成30年9月> 医学博士	生命倫理
専任	教授	岩井 和子 (69) <平成30年4月> 博士(社会福祉学)	医療英語 リハビリテーション概論 保健医療福祉概論 作業療法概論 精神疾患とその障害 作業療法総論 作業療法評価学総論 精神障害作業療法治療学 精神障害作業療法治療学演習 内部障害作業療法治療学 カウンセリング技法 専門職連携概論 芸術療法概論 代替療法概論 作業科学概論 研究法応用
専任	教授	伊藤 恵美 (59) <令和元年6月> 博士(心理学)	作業療法学概論 作業療法管理学 作業療法総論 身体障害作業療法評価学 高次脳機能障害作業療法評価学 高次脳機能障害作業療法治療学 高次脳機能障害作業療法治療学演習 地域作業療法学総論 国際リハビリテーション学総論 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 英文献読解 研究法入門 研究法応用
専任	教授	大歳 太郎 (46) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎運動学Ⅰ 基礎運動学Ⅱ 人間発達学 動作解析学 作業療法安全管理学 作業療法総論 発達障害作業療法評価学 発達障害作業療法治療学 発達障害作業療法治療学演習 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 臨床実習総合セミナー 研究法応用
専任	教授	東家 一雄 (58) <平成30年4月> 博士(医学)	東洋医療の基礎・導入教育 人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 人体の構造演習
専任	准教授	木村 大介 (50) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎運動学Ⅰ 基礎運動学Ⅱ 基礎運動学演習 作業療法総論 身体障害作業療法治療学 身体障害作業療法治療学演習 義肢・装具学 老年期障害作業療法評価学 老年期障害作業療法治療学 老年期障害作業療法治療学演習 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 臨床実習評価セミナー 臨床実習総合セミナー 研究法応用





専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	若山 育郎 (61) <平成31年4月> 医学博士	神経内科学
兼任	教授	郭 哲次 (66) <平成31年4月> 博士(医学)	精神医学
兼任	教授	紀平 為子 (63) <令和元年9月> 医学博士	加齢医学
兼任	教授	山本 博司 (67) <令和2年4月> 医学博士	医療統計
兼任	教授	村木 敏明 (67) <平成30年4月> 博士(医学)	医療英語 英文献講読
兼任	准教授	伊藤 俊治 (51) <平成31年4月> 博士(医学)	病因・病態学Ⅰ 病因・病態学Ⅱ
兼任	講師	吉田 隆紀 (41) <令和2年4月> 修士(医科学)	スポーツリハビリテーション概論
兼任	講師	相澤 慎太 (40) <平成30年4月> 修士(体育学)	スポーツと健康 生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ
兼任	講師	中吉 隆之 (55) <令和3年9月> 修士(人間科学)	東洋医学概論
兼任	助教	文野 住文 (35) <令和2年4月> 博士(健康科学)	臨床生理学
兼任	講師	井本 泰彦 (76) <平成30年4月> 理学士	科学の基礎

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	若山 育郎 (62) <平成31年4月> 医学博士	神経内科学
兼任	教授	郭 哲次 (67) <平成31年4月> 博士(医学)	精神医学
兼任	教授	紀平 為子 (64) <令和元年9月> 医学博士	加齢医学
兼任	教授	山本 博司 (68) <令和2年4月> 医学博士	医療統計
兼任	講師	村木 敏明 (68) <平成30年4月> 博士(医学)	医療英語 英文献講読
兼任	准教授	伊藤 俊治 (52) <平成31年4月> 博士(医学)	病因・病態学Ⅰ 病因・病態学Ⅱ
兼任	講師	吉田 隆紀 (42) <令和2年4月> 修士(医科学)	スポーツリハビリテーション概論
兼任	講師	相澤 慎太 (41) <平成30年4月> 修士(体育学)	スポーツと健康 生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ
兼任	講師	中吉 隆之 (56) <令和3年9月> 修士(人間科学)	東洋医学概論
兼任	助教	文野 住文 (36) <令和2年4月> 博士(健康科学)	臨床生理学
兼任	講師	井本 泰彦 (77) <平成30年4月> 理学士	科学の基礎

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	若山 育郎 (63) <平成31年4月> 医学博士	神経内科学
兼任	教授	郭 哲次 (68) <平成31年4月> 博士(医学)	精神医学
兼任	教授	紀平 為子 (65) <令和元年9月> 医学博士	加齢医学
兼任	教授	山本 博司 (69) <令和2年4月> 医学博士	医療統計
兼任	講師	村木 敏明 (69) <平成30年4月> 博士(医学)	医療英語 英文献講読
兼任	准教授	伊藤 俊治 (53) <平成31年4月> 博士(医学)	病因・病態学Ⅰ 病因・病態学Ⅱ
兼任	講師	吉田 隆紀 (43) <令和2年4月> 修士(医科学)	スポーツリハビリテーション概論
兼任	講師	相澤 慎太 (42) <平成30年4月> 修士(体育学)	スポーツと健康 生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ
兼任	講師	中吉 隆之 (57) <令和3年9月> 修士(人間科学)	東洋医学概論
兼任	助教	文野 住文 (37) <令和2年4月> 博士(健康科学)	臨床生理学
兼任	講師	井本 泰彦 (78) <平成30年4月> 理学士	科学の基礎

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	若山 育郎 (64) <平成31年4月> 医学博士	神経内科学 <b>皮膚科・感覚機能医学</b>
兼任	教授	郭 哲次 (64) <平成31年4月> 博士(医学)	精神医学
兼任	教授	河本 綾子 (61) <令和2年9月> 医学博士	加齢医学
兼任	教授	小河 健一 (53) <令和2年4月> 博士(医学)	臨床疾患学(内科)
兼任	講師	山本 博司 (70) <令和2年4月> 医学博士	医療統計
兼任	准教授	伊藤 俊治 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	病因・病態学Ⅰ 病因・病態学Ⅱ
兼任	准教授	戸村 多郎 (52) <令和2年9月> 博士(医学)	統計学の基礎
兼任	准教授	吉田 隆紀 (44) <令和2年4月> 博士(医学)	スポーツリハビリテーション概論
兼任	講師	相澤 慎太 (43) <平成30年4月> 修士(体育学)	スポーツと健康 生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ
兼任	講師	中吉 隆之 (58) <令和3年9月> 修士(人間科学)	東洋医学概論
兼任	講師	文野 住文 (38) <令和2年4月> 博士(健康科学)	臨床生理学
兼任	講師	井本 泰彦 (79) <平成30年4月> 理学士	科学の基礎

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
兼任	講師	松本 弘 (71) <平成30年4月> 理学士	兼任	講師	松本 弘 (72) <平成30年4月> 理学士							
		科学の基礎			科学の基礎							
兼任	講師	山崎 尚 (56) <平成30年4月> 理学博士	兼任	講師	山崎 尚 (57) <平成30年4月> 理学博士				兼任	講師	山崎 尚 (59) <平成30年4月> 理学博士	
		生命のしくみ			生命のしくみ			生命のしくみ <b>科学の基礎</b>			生命のしくみ <b>科学の基礎</b>	
兼任	講師	岩橋 秀夫 (64) <平成30年4月> 理学博士	<b>兼任 教授</b>		岩橋 秀夫 (65) <平成30年4月> 理学博士	<b>兼任 教授</b>		岩橋 秀夫 (66) <平成30年4月> 理学博士	<b>兼任 教授</b>		岩橋 秀夫 (67) <平成30年4月> 理学博士	
		生命の化学			生命の化学			生命の化学			生命の化学	
兼任	講師	安藤 仁朗 (52) <平成30年9月> 社会学修士	兼任	講師	安藤 仁朗 (53) <平成30年9月> 社会学修士			安藤 仁朗 (54) <平成30年9月> 社会学修士				
		統計学の基礎			統計学の基礎			統計学の基礎				
兼任	講師	中村 正信 (71) <平成30年9月> 理学博士	兼任	講師	中村 正信 (72) <平成30年9月> 理学博士			中村 正信 (73) <平成30年9月> 理学博士		兼任	講師	中村 正信 (74) <平成30年9月> 理学博士
		物質と自然のしくみ 情報科学			物質と自然のしくみ			物質と自然のしくみ			物質と自然のしくみ	
			<b>兼任 講師</b>		<b>入江 真行 (65) &lt;平成30年9月&gt; 工学修士</b>	<b>兼任 講師</b>		<b>入江 真行 (66) &lt;平成30年9月&gt; 工学修士</b>	<b>兼任 講師</b>		<b>入江 真行 (67) &lt;平成30年9月&gt; 工学修士</b>	
					<b>情報科学</b>			<b>情報科学</b>			<b>情報科学</b>	
兼任	講師	矢本 希夫 (67) <平成30年9月> 医学博士	兼任	講師	矢本 希夫 (68) <平成30年9月> 医学博士			矢本 希夫 (69) <平成30年9月> 医学博士		兼任	講師	矢本 希夫 (70) <平成30年9月> 医学博士
		生命倫理			生命倫理			生命倫理			生命倫理	
兼任	講師	池田 裕明 (64) <平成30年4月> 法学修士	<b>兼任 教授</b>		池田 裕明 (65) <平成30年4月> 法学修士	<b>兼任 教授</b>		池田 裕明 (66) <平成30年4月> 法学修士	<b>兼任 教授</b>		池田 裕明 (67) <平成30年4月> 法学修士	
		法の基礎知識 (日本国憲法)			法の基礎知識 (日本国憲法) <b>生命倫理</b>			法の基礎知識 (日本国憲法) <b>生命倫理</b>			法の基礎知識 (日本国憲法) <b>生命倫理</b>	
兼任	講師	渡邊 俊哉 (43) <平成30年4月> 短期大学卒										
		生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ										
兼任	講師	木村 弘之 (50) <平成30年9月> 修士(社会学)	兼任	講師	木村 弘之 (51) <平成30年9月> 修士(社会学)			木村 弘之 (52) <平成30年9月> 修士(社会学)		兼任	講師	木村 弘之 (53) <平成30年9月> 修士(社会学)
		社会学			社会学			社会学			社会学	
兼任	講師	田上 博幸 (52) <平成30年9月> 修士(社会福祉学)										
		社会福祉論										
			兼任	講師	<b>駒井 博志 (70) &lt;平成30年9月&gt; 社会学修士</b>	兼任	講師	<b>駒井 博志 (71) &lt;平成30年9月&gt; 社会学修士</b>	兼任	講師	<b>駒井 博志 (72) &lt;平成30年9月&gt; 社会学修士</b>	
					<b>社会福祉論</b>			<b>社会福祉論</b>			<b>社会福祉論</b>	
兼任	講師	北山 敏和 (67) <平成30年4月> 学校教育学修士	兼任	講師	北山 敏和 (68) <平成30年4月> 学校教育学修士			北山 敏和 (69) <平成30年4月> 学校教育学修士		兼任	講師	北山 敏和 (70) <平成30年4月> 学校教育学修士
		教育学			教育学			教育学			教育学	
兼任	講師	佐々木 敏光 (64) <平成30年4月> 修士(文学)	兼任	講師	佐々木 敏光 (65) <平成30年4月> 修士(文学)							
		英語表現法Ⅰ 英語表現法Ⅱ 英語表現法Ⅲ 英語表現法Ⅳ			英語表現法Ⅲ 英語表現法Ⅳ							

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	濱崎佳子 (57) <平成30年4月> 修士(言語文化学)									
		英語表現法Ⅰ 英語表現法Ⅱ 英語表現法Ⅲ 英語表現法Ⅳ									
兼任	講師	南山かおり (42) <平成30年4月> 修士(文学)	兼任	講師	南山かおり (43) <平成30年4月> 修士(文学)	兼任	講師	南山かおり (44) <平成30年4月> 修士(文学)	兼任	講師	南山かおり (45) <平成30年4月> 修士(文学)
		国語表現法			国語表現法			国語表現法			国語表現法
兼任	講師	狩野真理 (48) <平成30年4月> 修士(心理学)	兼任	講師	狩野真理 (49) <平成30年4月> 修士(心理学)	兼任	講師	狩野真理 (50) <平成30年4月> <b>博士(臨床心理学)</b>	<b>兼任</b>	講師	狩野真理 (51) <平成30年4月> <b>博士(臨床心理学)</b>
		コミュニケーション学 臨床心理学概論			コミュニケーション学 臨床心理学概論			コミュニケーション学 臨床心理学概論			心理学 コミュニケーション学 臨床心理学概論
兼任	講師	西田功 (61) <平成30年9月> 修士(社会福祉学)									
		手話									
			兼任	講師	岐津素子 (57) <平成30年9月>	兼任	講師	岐津素子 (57) <平成30年9月>	兼任	講師	岐津素子 (58) <平成30年9月>
					手話			手話			手話
			兼任	講師	竹内真知子 (76) <平成30年9月>	兼任	講師	竹内真知子 (77) <平成30年9月>	兼任	講師	竹内真知子 (76) <平成30年9月>
					手話			手話			手話
兼任	講師	宮本邦彦 (74) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	宮本邦彦 (75) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	宮本邦彦 (76) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	宮本邦彦 (77) <平成31年4月> 博士(医学)
		衛生・公衆衛生学Ⅰ			衛生・公衆衛生学Ⅰ			衛生・公衆衛生学Ⅰ			衛生・公衆衛生学Ⅰ
兼任	講師	松本健治 (69) <令和元年9月> 農学修士	兼任	講師	松本健治 (70) <令和元年9月> 農学修士	兼任	講師	松本健治 (71) <令和元年9月> 農学修士	兼任	講師	松本健治 (72) <令和元年9月> 農学修士
		衛生・公衆衛生学Ⅱ			衛生・公衆衛生学Ⅱ			衛生・公衆衛生学Ⅱ			衛生・公衆衛生学Ⅱ
兼任	講師	別所寛人 (61) <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	別所寛人 (62) <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	別所寛人 (63) <平成31年4月> 医学博士			
		臨床疾患学(内科)			臨床疾患学(内科)			臨床疾患学(内科)			
兼任	講師	西山稔 (58) <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	西山稔 (59) <平成31年4月> 医学博士						
		臨床疾患学(内科)			臨床疾患学(内科)						
兼任	講師	喜馬通博 (64) <令和元年9月> 医学博士	兼任	講師	喜馬通博 (65) <令和元年9月> 医学博士	兼任	講師	喜馬通博 (66) <令和元年9月> 医学博士	兼任	講師	喜馬通博 (67) <令和元年9月> 医学博士
		臨床疾患学(外科)			臨床疾患学(外科)			臨床疾患学(外科)			臨床疾患学(外科)
兼任	講師	前田晃 (54) <令和元年9月> 医学士	兼任	講師	前田晃 (55) <令和元年9月> 医学士						
		臨床疾患学(外科)			臨床疾患学(外科)						
						兼任	講師	巖野公東 (54) <令和元年9月> <b>博士(医学)</b>	兼任	講師	巖野公東 (55) <令和元年9月> <b>博士(医学)</b>
								<b>臨床疾患学(外科)</b>			<b>臨床疾患学(外科)</b>
兼任	講師	岩橋秀明 (53) <令和元年9月> 医学士	兼任	講師	岩橋秀明 (54) <令和元年9月> 医学士	兼任	講師	岩橋秀明 (55) <令和元年9月> 医学士	兼任	講師	岩橋秀明 (56) <令和元年9月> 医学士
		臨床疾患学(外科)			臨床疾患学(外科)			臨床疾患学(外科)			臨床疾患学(外科)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	金本成照 (49) <平成31年4月> 学士(医学)	兼任	講師	金本成照 (50) <平成31年4月> 学士(医学)	兼任	講師	金本成照 (51) <平成31年4月> 学士(医学)
		整形外科			整形外科			整形外科
兼任	講師	竹中賢一 (49) <令和2年4月> 修士(保健学)	兼任	講師	竹中賢一 (50) <令和2年4月> 修士(保健学)	兼任	講師	竹中賢一 (51) <令和2年4月> 修士(保健学)
		画像解析学概論			画像解析学概論			画像解析学概論
兼任	講師	松中成浩 (83) <令和元年9月> 医学博士	兼任	講師	松中成浩 (84) <令和元年9月> 医学博士	兼任	講師	松中成浩 (85) <令和元年9月> 医学博士
		皮膚科・感覚機能医学			皮膚科・感覚機能医学			皮膚科・感覚機能医学
兼任	講師	保富宗城 (51) <令和元年9月> 博士(医学)	兼任	講師	保富宗城 (52) <令和元年9月> 博士(医学)			
		皮膚科・感覚機能医学			皮膚科・感覚機能医学			
						兼任	講師	平岡政信 (48) <令和元年9月> 医学士
								皮膚科・感覚機能医学
兼任	講師	青野由紀 (38) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	青野由紀 (39) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	青野由紀 (40) <令和2年4月> 修士(教育学)
		免疫学			免疫学			免疫学
兼任	講師	宮下律子 (63) <平成31年4月> 医学士	兼任	講師	宮下律子 (64) <平成31年4月> 医学士	兼任	講師	宮下律子 (65) <平成31年4月> 医学士
		小児期の疾患とその障害			小児期の疾患とその障害			小児期の疾患とその障害

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
  - ・ その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください)。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

特になし。

【令和元年度】

伊藤恵美教授の専任教員就任が令和元年9月より令和元年5月に変更。

【令和2年度】

特になし。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
  - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
4	2	1	2	9	0	4	2	1	2	9	0
(3)	(2)	(0)	(2)	(7)	0						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
4	2	1	2	9	0	4	2	1	2	9	0
[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ **「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。**（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	1	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{9}{9} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{1}{9} = \boxed{11.11} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		特になし								
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		特になし								
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		特になし								
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼任教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等・・・該当なし

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成〇〇年)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成〇〇年)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成△△年)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成□□年)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成□□年)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成□□年)			

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<保健医療学部 作業療法学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<FD活動>

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

大学設置基準第25条の3および大学院設置基準第14条の3の規程に基づき、関西医療大学における教授内容・教授方法の改善、向上を図るため、関西医療大学FD(ファカルティ・ディベロップメント)推進委員会を置く。

##### b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

- ・平成30年4月21日開催 参加者13名/委員16名
- ・平成30年5月31日開催 参加者14名/委員16名
- ・平成30年9月6日開催 参加者15名/委員16名
- ・平成31年1月10日開催 参加者16名/委員16名
- ・令和元年5月9日開催 参加者14名/委員15名
- ・令和元年7月11日開催 参加者14名/委員15名
- ・令和元年9月5日開催 参加者10名/委員15名
- ・令和元年10月29日開催 参加者12名/委員15名
- ・令和2年1月20日開催 参加者10名/委員15名
- ・令和2年2月18日開催 参加者13名/委員15名

##### c 委員会の審議事項等

- ・FDの企画および実施に関すること
- ・FDについての情報収集に関すること
- ・FDに関する研修会等を企画・実施すること
- ・その他FDに関すること

#### ② 実施状況

##### a 実施内容

- ・新任教員のための研修会
- ・FD講演会
- ・公開授業
- ・授業評価アンケート

b 実施方法

・新任教員のための研修会

FD活動の一環として、新年度就任する教員及び、新たに講義や実習を担当する教員を対象に初任者研修会を実施。

・FD講演会

専任教員もしくは外部講師によるFD活動に関する内容の講演会を年に2回程度実施。

・公開授業

学生による授業評価アンケートの集計結果が妥当であるかを確認する目的で公開授業を実施。見学する授業を設定するのではなく、専任教員及び非常勤講師を問わず、全授業を対象とし、希望する授業を参観できる。参観後はアンケートに回答する。

・授業評価アンケート

学部学生に対して、科目担当教員すべて（非常勤教員含む）について前期、後期の学期途中に、授業評価アンケートを実施。科目担当教員が、スマートフォン等を使用し、webシステムによる授業評価アンケートの実施を指示する。非常勤講師担当科目についても非常勤講師が自身の授業において実施を指示する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・新任教員のための研修会

①実施日：平成30年4月4日（水）

参加状況：平成30年度 新任教員 11名

1. 建学の理念および本学の沿革について
2. 本学のFD推進活動について
3. 本学の授業および試験等について
4. 本学の学生生活について

②実施日：平成31年4月3日（水）

参加状況：令和元年度 新任教員 9名

1. 建学の理念および本学の沿革について
2. 本学のFD推進活動について
3. 本学の授業および試験等について
4. 本学の学生生活について

③実施日：令和2年4月3日（金）

参加状況：令和2年度 新任教員 9名

1. 建学の理念および本学の沿革について
2. 本学のFD推進活動について
3. 本学の授業および試験等について
4. 本学の学生生活について

・FD講演会

①実施日：平成30年4月21日（土）

参加状況：専任教員 70名

テーマ：「私の授業」

②実施日：平成30年10月4日（木）

参加状況：専任教員 63名

テーマ：「私の授業—国家試験への取り組み」

③実施日：平成31年3月16日（土）

参加状況：専任教員 55名

テーマ：1) 「授業デザインの重要性 ～設計から評価まで～」

2) 「IRとFDの接点と関係性」

3) 「アクティブ・ラーニングについて」

4) 「ティーチングポートフォリオチャート」

④実施日：平成31年4月20日（土）

参加状況：専任教員 62名

テーマ：「教育現場における著作物の利用」

⑤実施日：令和2年9月5日（木）

参加状況：専任教員 75名

テーマ：「学生評価について」

- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
- ・ 初任者研修の内容を踏まえて、各教員が授業に活用している。
  - ・ FD講演会の内容を参考に、各教員が授業に活用している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

- a 実施の有無及び実施時期
- ・ 平成30年度前期 平成30年6月4日～29日に実施
  - ・ 平成30年度後期 平成30年11月1日～30日に実施
  - ・ 令和元年度前期 令和2年6月3日～28日に実施
  - ・ 令和元年度後期 令和2年11月5日～29日に実施
  - ・ 令和2年度前・後期に実施予定
- b 教員や学生への公開状況、方法等
- 教員及び学生に対してはwebシステム上で結果を開示している。

<SD活動>

① 実施体制

- a 委員会の設置状況
- 大学設置基準第42条の3及び大学院設置基準第43条の規程に基づき、教員及び事務職員の能力開発及び資質向上を図ることを目的として、学長のもとにSD(スタッフ・ディベロップメント)推進委員会を置く。
- b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）
- ・ 平成30年4月10日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 平成30年5月22日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 平成30年6月12日開催 参加者7名/委員8名
  - ・ 平成30年9月11日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 平成30年10月9日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 平成30年10月23日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 平成30年12月11日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 平成31年2月12日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 平成31年3月12日開催 参加者7名/委員8名
  - ・ 平成31年3月26日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 平成31年4月23日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 令和元年5月28日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 令和元年7月9日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 令和元年9月11日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 令和元年11月14日開催 参加者6名/委員8名
  - ・ 令和元年12月24日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 令和2年2月13日開催 参加者8名/委員8名
  - ・ 令和2年2月27日開催 参加者7名/委員8名
- c 委員会の審議事項等
- ・ SDを推進する活動の企画と実施に関する事項
  - ・ SDについての情報収集に関する事項
  - ・ その他SDの活動推進のために必要な事項

## ② 実施状況

### a 実施内容

- ・外部研修会への参加
- ・SD研修会
- ・ハラスメント研修会
- ・資格取得

### b 実施方法

- ・外部研修会への参加  
職員自身が業務の専門性や効率性の向上を目指せるように、文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団、私学経営研究会および日本私立大学協会等が実施する外部研修会に参加。
- ・SD研修会  
外部より講師を招き、SD活動に関する内容の講演会を年2回程度実施。
- ・ハラスメント研修会  
外部より講師を招き、多種類のハラスメントの中から1種類に特化し、研修会を実施。
- ・資格取得  
各部署で担当業務に関係する資格等を検討し、取得を推奨。

### c 開催状況

- ・SD研修会

<平成30年度>

①開催日時：平成30年8月30日（木） 14:00～15:30

場 所：大学4号館3階 D311講義室

演 題：「知と汗と涙の近大流コミュニケーション戦略」

講 師：近畿大学 広報室 課長代理 高橋 智子 氏

参加人数：115名

②開催日時：平成30年11月16日（金） 13:30～17:30

場 所：明治国際医療大学

研修会名：関西鍼灸系大学間連携協議会 平成30年度SD研修会

テ ー マ：「タイムマネジメント研修」

講 師：office178代表 稲葉 真二 氏

参加人数：本学7名

<令和元年度>

令和2年2月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催延期

- ・ハラスメント研修会

<平成30年度>

開催日時：平成31年2月7日（木） 14:30～16:30

場 所：大学5号館3階 講堂

テ ー マ：『多様な性のあり方について考える～ LGBT 等～研修』

講 師：公益財団法人21世紀職業財団 客員講師 猪熊 康二 氏

参加人数：107名

<令和元年度>

開催日時：令和元年8月29日（木） 14:30～16:30

場 所：大学5号館3階 講堂

テ ー マ：「アンガーマネジメント研修」

～怒りを上手にコントロールするために～

講 師：公益財団法人21世紀職業財団 客員講師 猪熊 康二 氏

参加人数：103名

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項・・・該当なし

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。  
併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、学校教育法第109条及び学校教育法施行規則第166条の規定に則り、学則第2条において本学が行う自己点検・評価の目的を定めている。また、学則第2条に基づき、平成15年4月に自己点検・評価委員会規程を制定して学長のもとに自己点検・評価委員会を設置した。自己点検・評価委員会では、同委員会規程第4条に基づき、本学の教育・研究、学生生活、管理運営等の領域に関して4つの点検・評価部会（教育・研究活動点検・評価部会、学生生活点検・評価部会、管理運営点検・評価部会、大学独自基準点検・評価部会）を設け、継続的な点検・評価活動を実施している。

また、本学の設置の趣旨と目標を達成するための中期目標・中期計画を定め、それを達成するための年次計画（アクションプラン）を学内の各種委員会及び事務局各部署が策定している。令和元年度は、8つの大目標のもとに21の小目標を置き、41項目のアクションプランを実行した。自己点検・評価委員会は、年度ごとに各プランの進捗状況の点検・評価と見直しを行うことでPDCAサイクルを回し、内部質保証の推進に努めている。

このような活動のもとで平成28年度に受審した2回目の大学機関別認証評価では評価機構が定める大学評価基準に適合していることが認定され、学則に定めた自己点検・評価の目的を達成していることが示された。令和2年度には当該調査対象の組織（保健医療学部作業療法学科）における教育・研究活動を含めて、認証評価第3サイクル基準に沿った自主的な自己点検・評価を実施し、自己評価報告書をホームページ上に公表する予定である。

本学では、今後も法令に則った自己点検・評価を自主的、自律的に実施して社会に結果を公表することにより、学則に定める本学の目的の達成を図り、本学が担う社会的責任を果たしていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

当該調査対象の組織（保健医療学部作業療法学科）に関する評価内容を含む自己点検・評価報告書は、令和2年度に実施を計画している自主的な自己点検・評価の報告書として令和2年度中に公表する予定

b 公表方法

大学ホームページ上に公表

③ 認証評価を受ける計画

令和5年度に日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・  公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。